

国立競技場

2013.1・2
Vol.595



SPORTS JAPAN

年頭の あいさつ



理事 徳重眞光

新年あけましておめでとうございます。
2012年に開催されたロンドンオリンピックでは、日本選手団は史上最多となるメダルを獲得し、国民に夢と感動そして希望を与えてくれました。改めてスポーツのすばらしさを実感することができました。
国立スポーツ科学センターや味の素ナショナルトレーニングセンターにおいては、長期に渡りオリンピックに参加した選手やスタッフに対して様々な形で支援を行いました。文部科学省からの委託事業「チーム「ニッポン」マルチサポート事業」の一環として設置されたマルチサポート・ハウスは、現地で多くの日本選手やスタッフの活躍に貢献することができました。その経験を踏まえ、すでに次のオリンピックに向けてスタートを切っているところです。

また、国立競技場は、2019年に開催が決定しているラグビーワールドカップ、そして2020年オリンピック・パラリンピック招致においては、新スタジアムの建設を前提としてメインスタジアムに位置づけられています。昨年、新スタジアムの国際デザイン・コンクールを開催し、広く世界から国家プロジェクトにふさわしい優れたデザイン案が提案されるなど、スポーツそして文化の拠点となるよう、次世代のスタジアムとして生まれ変わるための準備を進めております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」及び平成24年に策定された「スポーツ基本計画」のコンセプトは、スポーツの振興からスポーツの推進、そしてスポーツを通じた社会開発へと広がりました。JAPAN SPORT COUNCIL（日本スポーツ振興センター）は、従来のスポーツ振興に加え、新たな取り組みを図るための組織として、果たすべき役割や責任はますます大きくなると考えております。河野理事長の下に役職員一同、一層の努力をしておりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

1,010人が参加!



雨天の中迎えた、4回目のファンランDAY

10月28日、今年で4回目を迎えた国立競技場主催のイベント「国立競技場ファンランDAY 2012～快走快食～」が実施されました。ビギナーからアスリートを目指す方まで、どなたでもレベル別に楽しむことができるのがこのイベントの特徴です。

オープニングイベントでは、日本スポーツ振興センター SPORTS JAPAN アンバサダーの朝原宣治氏、柴田亜衣氏、谷本歩実氏が登場し、会場を盛り上げました。その他にも、松村邦洋氏、立川志らら氏、スマイリーキクチ氏、伊倉愛美氏など豪華ゲスト陣が参加者を激励し、お笑い芸人のマシンガンズ、風藤松原、アルコ&ピース、新宿カウボーイの4組もランニングウェア姿で登場し、参加者とともにランニングプログラムに参加しました。



ゲストとハイタッチしながらスタート!

ペースメーカーと一緒に1時間ラン!

参加者それぞれのレベルに合わせた【1時間ラン】は、国立競技場と神宮外苑外周を周回する3Kmのコースで実施。1kmを4分半、5分、6分、7分で走るペースメーカーと一緒に、ランナーは自分のレベルに合わせて走りました。

レベル別に楽しめるランニングプログラム!

ランニングクリニックは、レベル別に実施。スポーツ大会の企画運営をしている株式会社クロスブレイス 代表取締役の小林渉氏がクリニックディレクターを務め、世界で活躍したトップアスリートが美しいフォームや効率的な走り方、トレーニング方法などの技術を伝授しました。



上級クラス サブフォー
アスリートのように美しく走ろう!

エリートマラソンまで狙いたいと思っているレベルにも対応した実践トレーニングレッスン。無駄な力みのない美しいフォームを身に付けることを目指し、トップ選手の動き・スピードを感じながら、一緒にトレーニングをしました。
コーチ：西田隆維/駒澤大学在学中は箱根駅伝4回出場。ユニバーシアード日本代表としてハーフマラソンで銀メダルを獲得。その後、実業団で世界陸上男子マラソン日本代表として9位となるなど、数多くの実績を残す。

中級クラス
目指せマラソン完走!

サブフォー・サブファイブを目指して、より効率的なトレーニング法、動きづくりを学びました。すぐに実践できる簡単なアドバイスで、アスリートのようなしなやかな走り、身体に変身!
コーチ：新宅雅也/日本マラソン界の黄金時代を支えた立役者。幻のモスクワ五輪、ロサンゼルス五輪、ソウル五輪とそれぞれ違う種目で出場したスーパーランナー。現役引退後、三井住友海上陸上部監督、体育進学センター理事を務める。

初級クラス ビギナー
美しい走りを身につけよう

もう一度は始める基礎からのランニングレッスン。美しい走りを身に付けられれば、記録もアップ、身体もシェイプアップ。怪我なく楽々マラソン完走を目指します!立ち方・歩き方から見直し、美しい効率的な走り方を身に付けていただく内容。
コーチ：園原健弘/バルセロナ五輪50km競歩代表。世界陸上3回連続出場、箱根駅伝2回出場など競技者としての経験に基づいて健康づくり・ダイエット指導など幅広い分野で活躍中。

ランニングを 楽しんだあとは、



盛り上がったお笑いライブ

アスリートトークショーではロンドン五輪の話なども

ランフードスタジアム

12:00 ~ 特別講演
講師：ノンフィクション作家 佐山和夫氏
「100年前のオリンピックと金栗四三」
13:30 ~ 食をスポーツに
テーマにしたアスリートトークショー
出演：柴田亜衣氏、徳本一善氏、小林渉氏
現役時代の食事内容やオリンピックの出来事など、興味ある話題が盛りだくさんでした。



14:00 ~ お笑いライブ&抽選会
出演：マシンガンズ、アルコ&ピース、風藤松原、新宿カウボーイ 芸人4組による対決型ライブを実施。ネタの面白さを競うもので、参加者からの投票制で、マシンガンズが優勝。優勝チームに一票を投じた参加者の中から抽選でミズノ株式会社提供のウェアなどが贈られました。

ランフードスタジアムの一角には、基礎代謝測定・血管年齢測定・ストレスチェック・肌チェックが出来る精密機器を用意、栄養士などの専門家がフィジカルチェックをするという『ボディカウンティングコーナー』を設け、人気コーナーとなりました。

雨天の中、たくさんの方々にお越しいただきランニングイベントを楽しんでいただくことができました。これからも、より多くの方にスポーツを楽しんでいただく場所と空間をご提供できるよう努めてまいります。

JBL 歴代名勝負と 新リーグについて

日本バスケットボールリーグ 広報部 増田匡彦

JBLは正式名称を【日本バスケットボールリーグ (JAPAN BASKETBALL LEAGUE)】と言います。これはリーグ名であり、組織名でもあります。一般的には【JBL】が馴染みのある名称かと思えます。JBLと称し始めたのは1995年からで、「バスケットボール日本リーグ機構」として、日本リーグの運営を独自で行う組織を作りました。2007年からは「日本バスケットボールリーグ」とリニューアルし今年度で18年目のシーズンが開催中です。そのJBLは今シーズン (JBL2012 - 2013 シーズン) をもって解散し、2013年からは新たなリーグ「NBL」を発足させます。ここでは、JBLの歴史と新リーグの紹介をさせていただきます。

現在2020年オリンピック・パラリンピック招致を目指しPRが盛んにされていますが、今から49年前に行われた東京オリンピックで男子バスケットボールは、国立代々木競技場第二体育館で開催されました。その時から、第二体育館はバスケットボールプレイヤーの憧れであり、今でも変わらずバスケットボールの聖地と呼ばれています。特にシーズンの集大成でありチャンピオンを決する決勝戦では、聖地といわれるがゆえに数々の名勝負が生まれてきました。そこで、まずはJBLの歴史を語る上では欠かせない国立代々木競技場第二体育館での名勝負をご紹介します。

JBLスーパーリーグ2004 - 2005シーズンのファイナル。このシーズンから、決勝戦は5戦のうち先に3勝した方が優勝となり、前年度から試合数が増えたことで、チームは勝たなければいけない試合が増え同時に負担も大きくなりました。そんな中決勝に勝ち進んだ東芝ブレイブサン

▼ JBL2004 - 2005 優勝を決めた東芝ブレイブサンダース



ダースは初戦から2連勝して王手をかけたものの、連敗から立ち直ったアイシンシーホースが2連勝し「逆王手」。勝負が最終第5戦までもつれた結果、75対73という僅かな差で勝利した東芝がシーズン優勝を飾りました。試合の行われた5日間は連日3,000人近い観客が名勝負を見に来場し、入場制限が出る日もありました。

もうひとつ挙げられる名勝負はJBL2009 - 2010シーズンのファイナル、リンク栃木ブレックス対アイシンシーホースの試合です。リンク栃木ブレックスは、それまで2年連続優勝を果たしていた王者アイシンを3連勝で下し、チーム創立3年にして初優勝を飾りました。優勝を決めたファイナル第3戦ではリンク栃木のエース、川村卓也のシュートがゲーム終了ブザーとともに決まり延長戦へ。その延長



▲ JBL2009 - 2010 ファイナルでシュートを決めるリンク栃木ブレックス #0 田臥 勇太



新リーグ (National Basketball League) ロゴ

戦を制し優勝を決めた時は、割れんばかりの歓声が代々木第二体育館を揺らしました。田臥勇太という有名選手が所属するチームですが、栃木県を拠点に活動するプロフェッショナルチームで、チームを心から応援する多くのサポーターに支えられ、試合中も優勝の喜びも選手・スタッフ・観客が一体となっていたのがとても印象的な試合でした。

これまで男子バスケットボールリーグは、1967年の日本リーグ創設以来、企業のバックアップにより、チーム数を拡大し、その後は2001年に開始されたJBLスーパーリーグ、2007年から現在に至るJBLを経て、少しずつではありますが確実に進歩してきました。また2005年のbjリーグ誕生により、バスケットボールを観戦する市場が拡大され、地域密着型のチームが日本各地で活動するようになりました。

そして2013年からスタートするNBLは同年9月より開

幕し、2014年4月までレギュラーシーズンを行い、プレーオフは5月に開催を予定しています。また、レギュラーシーズンの試合数は1チーム当たり54試合程度を想定しており、参加チームの正式名称には、地域名付与を義務づけて、地域密着を目指したチーム作りを行います。

ロゴデザインは、赤と緑の2色でデザインされており、赤は「競争」「日本」、緑は「協調」「公益」を表現しています。また、シンプルで保守的ながらも、日本の他のリーグではあまり見られないエンブレムデザインを採用しました。

NBLは選手・チームはもとよりファンの皆様や社会のために存在し、これまでとは異なる枠組みや制度を取り入れることで事業の拡大発展を図り、【NIPPONのバスケットをもっと強く、もっとメジャーに。】を合言葉に、日本で最も質の高いプロフェッショナルリーグを目指してまいりますので、ぜひご注目いただければと思います。



Facebook 始めました

みなさんに、より一層日本スポーツ振興センター (JAPAN SPORT COUNCIL) について知っていただき、ファンになっていただきたい! という思いから、平成24年6月にFacebookページを開設しました。国立競技場の運営から学校の安全支援業務まで、幅広い事業を行っているJAPAN SPORT COUNCILの各事業の最新ニュースや周辺情報を写真等と一緒に発信しています。

以下に、定期発信コーナーの一部をご紹介します。
『聖火台からの風景』… 都心にありながらも緑が多い国立競技場周辺の様子を、国立競技場の聖火台から撮影した写真を掲載
『スポーツ博物館・図書館 今日の逸品』… スポーツ博物館展示品やお勧めの書籍などをご紹介します
『国立登山研修所からの風景』… 立山周辺の壮大な大自然の風景写真を定期的に掲載

他にも、ロンドンオリンピック・パラリンピック期間中は、SPORTS JAPAN アンバサダーの柴田亜衣さんと大日方邦子さんが、現地の様子を写真とともにレポートしてくれました。マルチサポートハウスについても掲載し、ハウスの閉館をお知らせするコメントには、たくさんの「いいね!」をいただきました。

みなさんがFacebookを見て、「あ、こんな事業もJAPAN SPORT COUNCILがやっているんだ!」と気づき、「いいね!」をクリックしたくなるような、価値ある情報を今後も発信していきたいと思えます。みなさんのアクセス、お待ちしております!



スポーツ祭り 2012 が行われました!



日本中が歓喜したロンドンオリンピックの余韻が冷めやらぬ10月8日(祝・月)、絶好のスポーツ日和の中、「スポーツ祭り2012」が国立スポーツ科学センター(JISS)及び味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)で行われました。

ロンドンオリンピックで活躍した選手も多数参加し、各種イベントは大盛況。総入場者数は延べ14,000人で、過去最多を記録しました。

味の素フィールド西が丘で実施した開会式では、笠浩史文部科学副大臣の開会あいさつと、オリンピックによる主催団体旗の入場、伊調馨選手・米満達弘選手による「スポーツ祭りの火」の点火が行われました。

その後、全国から選ばれた子どもの体力向上啓発「ポスター」[標語]の表彰式が行われ、河野理事長からは小瀧颯真さんと本田優夏さんに、日本スポーツ振興センター理事長賞が授与されました。



最後は、例年好評のJISSトレーニング体育館指導員オリジナル準備体操を実施。流行りの曲にのせ、全身をまんべんなく動かせるよう工夫して作られた体操を、子どもも大人も楽しそうに行っていました。

日本スポーツ振興センター理事長賞の授与

開会式後、味の素フィールド西が丘では「オリンピックふれあい大運動会」が実施され、約600人が5つの班に分かれ、大玉転がし、フラフープ競争、しっぽ取り競争を楽しみました。また、陸上トレーニング場で行われた「オリンピックふれあいジョギング」では、全体で約2,000人が、周辺の道路約1.8キロをオリンピックと一緒に汗だくになりながら走りました。



スターターの岩上センター長と参加者

JISSでは、「キッズ・スポーツ科学ランド」、「親子でアスリート食体験」を開催。

2階の体力科学実験室で行われた「キッズ・スポーツ科学ランド」は、最年少3歳、最高齢72歳と、老若男女問わずたい

へん多くの方が参加されました。身長・体重・体脂肪率をカラダの指標として測定し、筋肉を画像化したり、垂直跳びや全身反応時間を測定するなど、普段トップアスリートが実際にしている科学的測定を体験しました。また、世界でも数少ない大型トレッドミルや、素早い運動動作をハイスピードカメラで測定するなど、普段ではあまり体験することができない測定を親子で楽しむ様子が伺えました。

7階レストランR3(アールキューブ)では「親子でアスリート食体験」を実施し、小学校1年生~6年生(30組60名)の親子が参加。「主食・主菜・副菜・乳製品・果物」がそろったメニューのうち主菜と副菜は普段アスリートが食べているのと同じ量を3名のオリンピックと一緒に食べながら、食事の大切さや海外で食事をする際の工夫など、様々な体験談を参加者は真剣に聞いていました。



体の形態測定



親子でアスリート食体験

午後からは、JISS、NTCの専用練習施設を利用し、各競技団体主催のスポーツ教室を開催。子どもたちは指導者の声に真剣に耳を傾け、一生懸命取り組んでおり、ここから未来のオリンピックが誕生するのではと期待させられます。



体操教室に参加する子供たち

また、今年も、東日本大震災による福島原発事故の影響で、屋外活動を制限されているエリアのスポーツ少年団(20団体、178人)を招待し、スポーツを楽しんでもらうことでスポーツを通じた復興支援を行うことを目的とした「福島キッズスポーツ祭りツアー」を実施。前日には東京観光やオリンピックとの記念撮影も行っており、存分に楽しんでもらえたようです。

例年にも増して好評だった「スポーツ祭り2012」。来年もたくさんの楽しいイベントを用意する予定ですので、スポーツ好きの子どもも、運動不足の大人も、とにかくイベント好きのあなたも、是非ご来場ください!

スポーツ博物館 佐山和夫氏講演会 / アーチェリー用具の展示



佐山和夫氏講演会

■ 佐山和夫氏講演会

去る10月28日、秩父宮記念スポーツ博物館では、「国立競技場ファンラン DAY2012 快走快食」のイベント内で、ノンフィクション作家である佐山和夫氏による特別講演会「100年前のオリンピックと金栗四三」を開催しました。この講演会は、当館が2012年の9月14日から11月12日まで開催していた特別企画展「ストックホルムオリンピックから100年~マラソンの父・金栗四三の足跡」の記念行事として、佐山氏をお招きし実現しました。

佐山氏はスポーツ関係の著書や翻訳を多数執筆されているノンフィクション作家です。金栗四三氏について取り上げた著書『箱根駅伝に賭けた夢「消えたオリンピック走者」金栗四三がおこした奇跡』の執筆に当たっては、実際にストックホルムに赴き当時のマラソンコースを検証し、金栗氏を介抱したペトレ家などを訪問しました。この講演会ではその調査で発見したことや、金栗氏が日本スポーツ界に残した軌跡、また玉名市にある同氏の記念碑に刻印された文字「体力 気力 努力」の紹介などを講話されました。昨年は「日本マラソンの父」金栗氏が、日本人として初めてオリンピックに出場したストックホルム五輪から100年目に当たり、スウェーデンではストックホ

ルム五輪100周年記念式典が開催されました。金栗氏が走ったマラソンコースとほぼ同じコースをたどる、ストックホルム五輪100周年記念マラソンのエピソードなど、実際に式典に参加された佐山氏のお話は臨場感に溢れ、会場に集まった多くの聴講者は興味深そうに耳を傾けていました。

■ アーチェリー用具の展示

2012年のロンドンオリンピックでは男子個人で古川高晴選手が銀メダルを獲得、女子団体が日本初となる銅メダルを受賞しました。

当館では2012年11月14日からウィンジャパンと渋谷アーチェリーのご協力のもと「アーチェリー用具」を展示しています。

ケース内には、古川選手が使用していたものと同モデルのアーチェリー用具を展示しており、併せてロンドンオリンピックで活躍した選手陣の勇姿と感動を写真パネルでお伝えしています。

また、来館者の皆様に実際に手に取っていただけるように、体験用の弓具(初級者用)も展示しています。当館にお越しの際は是非、アーチェリーのメカニカルなフォルムをご鑑賞、ご体感ください。



アーチェリー用具展示

国立登山研修所 秋に開催した研修事業

10月に国立登山研修所が開催した主催事業について紹介します。



岩場での救助訓練(雑穀谷)

ライミング訓練施設やスポーツクライミング用人工壁でクライミング技術や懸垂下降技術、自然物を利用した支点的構築技術を習得しました。

雑穀谷等の周辺山域では、救助及び搬送技術の習得や浮石の処理、落石時の掛け声など、山中での危険を回避、または周知するための山岳地帯の基本行動を学び不整地での登下能力を向上させました。

研修生は、5日間の研修を通して、遭難救助に関する知識と技術、救助活動の安全確保や組織に帰ってからの指導要領を学び、山岳環境における救助活動の特殊性について理解を深めました。

山岳遭難救助研修会

警察・消防・自衛隊等職務で山岳遭難救助活動を行う指導的立場の人や民間山岳救助組織において指導的立場にある人を対象に、国立登山研修所内各施設及び雑穀谷等の周辺山域で、現場での即応力及び指導者としての資質の向上を目指し、10月17日から5日間の日程で開催しました。

51名の研修生は、講義「確保理論」を受講しロープやカラビナなどの登はん用具について理論を深めた後、「総合研修コース」と「基礎研修コース」に分かれてロックク



引き上げ救助訓練(滝谷)

国立競技場

サッカー	第 92 回天皇杯全日本サッカー選手権大会 決勝 (1/1)
ラグビー	第 49 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 準決勝 (1/2)
サッカー	第 21 回全日本大学女子サッカー選手権大会 決勝 (1/6) 平成 24 年度 第 61 回全日本大学サッカー選手権大会 決勝 (1/6)
サッカー	第 91 回全国高校サッカー選手権大会 準決勝 (1/12)
ラグビー	第 49 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 決勝 (1/13)
サッカー	第 91 回全国高校サッカー選手権大会 決勝 (1/14)
陸上	第 11 回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン (1/27)
ラグビー	第 50 回 日本ラグビーフットボール選手権大会 決勝 (2/24)

秩父宮ラグビー場

ラグビー	トップチャレンジ 1 トップウエスト 1 位 vs トップチャレンジ 2 の 1 位 トップ九州 1 位 vs トップイースト 1 位 (1/5)
ラグビー	第 50 回 日本ラグビーフットボール選手権大会 1 回戦 (2/3) 2 回戦 (2/10) 準決勝 (2/16)
ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ 2012-2013 ディビジョン 1 リコー vs ヤマハ, 東芝×近鉄 (1/6) プレーオフトーナメント ファイナル セミファイナル (1) 勝者 vs セミファイナル (2) 勝者 (1/27)

味の素フィールド西が丘

サッカー	第 19 回全日本大学女子サッカー選手権 (1/4)
サッカー	北区少年少女サッカー大会 (1/13)
サッカー	JFA キッズ (U-6) サッカーフェスティバル (1/27)
サッカー	東京都クラブユースサッカー U-17 選手権大会 (2/10)
サッカー	東京都クラブユースサッカー U-14 選手権大会 (2/16)
サッカー	東京都キッズ (U-6) サッカー大会 (2/17)
サッカー	関東大学サッカーオープニングフェスティバル (2/23)

代々木第一体育館

バスケット	「東日本大震災」被災地復興支援 第 88 回天皇杯・第 79 回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会 (1/2~6, 11~14)
卓球	天皇杯・皇后杯 平成 24 年度全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部) (1/15~20)
フィギュアスケート	東日本大震災復興支援 第 68 回国民体育大会冬季大会 (1/26~30)
合同会社説明会	JTB Summit (2/6~7)
空手	第 4 回 JKJO 全日本空手道選手権大会 第 6 回 JKJO 全日本ジュニア空手道選手権大会 (2/10)
製品展示会	rooms26 (2/12~14)
チャリディング	第 10 回子どもチャリディング大会 (2/16)
チャリディング	第 23 回全日本高等学校チャリディング選手権大会 第 11 回全日本クラブチームチャリディング選手権大会 (2/16~17)
コンサート	2PM ARENA TOUR 2013 (2/19~20)
コンサート	SEKAI NO OWARI ARENA TOUR 2013 [ENTERTAINMENT] (2/22~23)

代々木第二体育館

バスケット	「東日本大震災」被災地復興支援 第 88 回天皇杯・第 79 回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会 (1/1~4)
ダンスドリル	Dance Drill Winter Cup 2013 (1/12)
空手	風林火山第 12 回全国武道空手交流大会 (1/13)
格闘技	Krush (1/14)
バスケット	JBL2012-2013 (1/26~27, 2/2~3, 2/8~9, 2/15~16)
テコンドー	第 24 回全日本テコンドー選手権大会 (2/10~11)
バスケット	第 14 回Wリーグ プレーオフ・ファーストラウンド (2/17)
卓球	第 18 回ジャパントップ 12 卓球選手権大会 (2/24)

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。●
【ドメインの変更のお知らせ】

2013 年 1 月からウェブサイトの URL が変更となりましたのでご注意ください。http://www.jpnsport.go.jp

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)
秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)
味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

編集後記

あけましておめでとうございます。いよいよ今年 9 月には 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会開催都市が決定します。スポーツ振興に携わる者として、あの感動を実際に味わいたいと思うとともに、再び東京で開催することで、皆が明るい未来を想像できる原動力になることを願ってやみません。そして、この歴史ある国立競技場も世界の英知を結集して、新しいスポーツの聖地として生まれ変わろうとしています。日本スポーツ振興センターのコーポレートメッセージ「未来を育てよう。スポーツの力で。」を実現していく一年になりそうです。本年もよろしくお願いたします。(K)

国立競技場 第 595 号

2013 年 1 月 1 日発行 (隔月発行)

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 10 番 1 号

tel 03-5410-9121

※ 2012 年 10 月 1 日より発行部署が変わりました。

●編集協力 株式会社ジャニス

